発行日:平成20年4月1日　第1号

交流

福島日中文化交流会　事務連絡先

〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5
Tel/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275
Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp

ともに日中文化交流を！

平成20年度を迎えるにあたり、福島日中文化交流会が、会員のみなさまの支えにより順調に活動できますこと心より感謝を申し上げます。

代表幹事　岩間真弓

顧みますと、昨年 10 月 1 日に有志の方々のご協力をいただき立ち上げましたこの会は、皆様方のご支援とご協力なくしては、できませんでした。

当会は、15 年続いた中国語会話教室を母体に立ち上げた会でありますが、会設立当初、右往左往する私は、日中友好運動を長年続けてこられた顧問である高橋重夫さんに的確なアドバイスをいただき、高橋重夫さんや心が精通する方々とともにまた、日中友好運動ができるかと心が晴れたものでした。

私は、91年に初めて中国西安市を訪れ、中国の雄大な自然と悠久の歴史に触れ、その日から自分の人生観が変わったのではないかと思っております。当時の西安市は、恐らく母からよく聞いた話の中での日本の昭和10年代頃と似ているのではなかろうかと思います。時代のタイムスリップしたような景色に魅せられ、町並みを練り歩き、よく大雁塔に登ったものでした。大雁塔に登ると西安市の四方が良く見渡され、時間を忘れるほど眺めた記憶があります。

この大雁塔は、648 年、唐の第 3 代皇帝高宗が母である文徳皇后を供養するために建立した仏教寺院であります。そして、あの『西遊記』で有名な玄奘三蔵が貞観 3 年(629 年)白馬・玉龍に乗って三神仙の孫悟空、猪八戒、沙悟浄を供に従え、さまざまな苦難を乗り越え天竺へ行くという話は、あまりに有名ですが、玄奘三蔵は、その天竺であるインドから貞観 19 年(645 年)に戻り、持ち帰った経典をサンスクリット(梵語)から漢語に 12 年間かけて大雁塔のある大慈恩寺において翻訳作業を行ないました。大雁塔の階段を一歩一歩踏みしめ階上に上る時、玄奘三蔵もこの階段を踏みしめたのだろうかと胸躍る気持ちになり、また、大変な情熱を持ち偉業を成し遂げたのかと思うと尊敬の念で一杯になります。

私は、この人格高潔、豊富な知識、語学力抜群、熱き情熱、不撓不屈の精神の持主である玄奘三蔵を思うとき、中国に造詣の深い、60 年以上もの間情熱を掛け中国と関わりを持ってこられた高橋重夫さんという方を重ねて見てしまうのは、私だけでしょうか。

もし、高橋重夫さんが玄奘三蔵であるならば、自画自賛でありますが、私が孫悟空に成り代わり、多くの仲間たちとともに日中文化交流の活動を展開して参りたいと思います。どんなに筋斗雲を飛ばし、如意棒を振り回してもお釈迦さまや“唐僧高橋”にはかないませんが、会員のみなさまと一緒にこれからも中国と友好関係を築く為、筋斗雲を飛ばし、如意棒を振り回して参りたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

山椒は小粒でも
ぴりりと辛い

先日知人から中国産の乾燥した「花椒 huajiao」の実をいただいた。「椒」の字の付くものは、「こしょう（胡椒）」「とうがらし（辣椒）」など香辛料に用いる植物で、花椒は「山椒」のことである。日本では山椒の実は粉にして市販されるのが普通で、干した実のままの山椒は、なかなかお目に掛かれない。

山椒の萌え出したばかりの若葉は木の芽といい、田楽などには欠かせないが、実を粉にしたものは、うなぎの蒲焼の香り付けや、七味とうがらしに用いられる程度で、われわれには余りなじみがない。辞書にも「果実は香味料及び健胃剤、回虫駆除薬に」とあるだけである。ところが中国では、調味料として麻婆豆腐や肉の煮物などに、広く頻繁に使われているようだ。袋には「卓越品質・源干自然（調味料）」とあり、添え書きにも「香気濃郁」「口味純正」「風味独特」とあって、中国語は読めずとも、日本語と全く同じだから意味は通じる。それで早速わが家の「豚肉と野菜の煮物」に使ってみた。鍋の蓋を取ると、添え書きどおり馥郁とした香りが堪らない。ところが私は大失敗をしていた。すり潰して入れるところを実のまま、それも多めだったようで、だんだん匂いが鼻をつき、噛めばぴりりとした辛さが舌に残って、家内の評判を落としてしまった。

話は変わる。先の、幹事会で、不定期ながら会報の発刊が決まり、機関紙の名称は会の名前から「交流 jiaoliu」とすることで承認を得た。機関紙にはコラム欄があった方がいい。こういう場合頭を悩ますのは、そのネーミングである。奇抜なのは札幌のサッカーチームの名前で、道産子（どさんこ）を逆さ読みしてイタリア語ふうに「コンサドーレ」だし、上場会社の中にはゲームの「ブロッコリー」、金融機関の「トマト銀行」と野菜の名前が見える。

それで帰りのバスの中で思い出したのが、前述の「山椒」であった。「山椒は小粒でも、ぴりりと辛い」と言われ、身体は小さくても身に備えている気力才能から侮れないことに用いられる。新生福島日中文化交流会も山椒のように小粒でも、「優れたものを秘めている」と言われるよう願いをこめて、コラム欄の名称に取上げることにした。それも山椒ではなく「花椒」と目に訴えての命名である。従ってコラムも馥郁とした香りの中に、時にはぴりりとした辛さを持って臨みたいものと思っている。

（佐　藤　　満）

追記

私はこれまで福島市日本中国友好協会が、ＮＰＯへの組織替えに伴って発刊した機関紙《ふくしまと中国》のコラム「野煙」を担当してきた。それが不本意にも僅か１年余りで解散になり、新体制の下に刊行の機関紙は、その意義を失い廃刊したため、コラムに掲載の『「生きている兵隊」と石川達三』は、最終章を残して打ち切りとなった。

今回福島日中文化交流会の機関紙《交流》の発刊にあたり、本会員には《ふくしまと中国》の読者だった方が多く見られるので、本紙に最終章の掲載をお許しいただきたい。

『「生きている兵隊」と石川達三』を初めて読まれる方のために

作家石川達三は、南京占領後間もない昭和１３年２月「生きている兵隊」を発表したが、同時に発売禁止処分となり、本人も禁錮４ヵ月（執行猶予３年）の刑を受けた。

石川は戦後、社会派作家として独自の活躍を見せるが、自由にものが書ける時代になったのに、戦争を題材とした小説を残さなかった。何故か？　この長年の謎を解き明かす手掛かりが、再読した中公文庫の解説の中にあった。解説者の半藤一利が「生きている兵隊」を褒めた時、石川は「若気の至りだった…」と照れたというのである。

《若気の至り》の言葉は、自分に対しては反省又は後悔の時に口にし、相手に対しては、諭したり諌める場合に使う。では石川は何をもって「生きている兵隊」の執筆を「若気の至り」としたのか？　それを解く鍵となる同じ言葉が、このあと偶然に読んだ彼の小説「青春の蹉跌」の中で、主人公が友を諭す場面に出て来るのである。

「生きている兵隊」と石川達三　（４）

小説では＜革命なんか来やしない＞と信じている主人公が、＜革命は来る。革命によっておれたちの新しい社会を造るのだ＞と言う友に、**＜君の考えは若気の至りだな＞**　そして、生きることは妥協することだ。社会を敵にまわしてどうする。いくら現実を否定しても、現実は眼の前に厳然として変わらないじゃないか――と意見した後、次のように続く。

おれたちはまだ学生だよ。現実の社会なんて、本当はまだ体験されていないんだ。……
革命というのはね、被害者がやることだよ。ところが君はまだ被害者でも何でもない。もっと現実を体験する必要があるよ。自分で働いて、安月給で貧乏暮しをして、社会の下積みにされて、被害者になって、それから革命を考えればいいんだ。

「生きている兵隊」は、石川が兵隊たちから前線での行動を聞いて回り、その見聞を基に書いた作品である。「青春の蹉跌」の＜若気の至り＞に、「生きている兵隊」を重ね合わせてみると、おのれ自身をたしなめる別な石川達三の声が聞こえて来そうだ。

≪お前は作家だ。実戦の経験がない物書きだ。戦争はな、戦に勝つための兵の命懸けの仕事なんだぞ。お前は兵でも何でもない。兵は毎日が殺すか殺されるかだ。撃たれた揚句、ずたずたに切りさいなまれていた友の屍体。路地に立っていた１１、２歳の少女の前を、通り過ぎた途端に撃たれた将校。それを目の前にした時の兵の気持が判るか。戦闘の体験なしに判るはずがない。それを聞きかじりで文章にして、何が「生きている兵隊」だ。なに？　戦争への心構えを徹底させるためだったと？　若かったんだよ、お前は――≫

解説によれば、作中の事件や場所は、発表後の検閲を考え、みな正確とのことである。この二つの事件も、当然殺戮の様子まで書かれている。そして批評家は、これらの事件について『兵隊達の残虐行為はすべて“そうせざるを得なかった”“仕方がなかった”と、その行為が守られる形で書かれている。(「石川達三論」の角田友美)』と指摘するのだ。小説の中の状況説明を、残虐行為の逃げ道と捕らえるのは如何かと思う。また前掲の本人が書いた年譜には、日にちが書いてなかったため、石川の南京滞在は占領直後とばかり思っていたが、解説には東京を発ったのは１２月２５日で、南京到着は翌１３年１月５日とあるから、占領後２３日も後ということになる。半藤一利は、「石川はずっと遅れてその地に着いている」と遅れを強調している。従って(１)に記載の石原慎太郎の発言は、根底から崩れる訳だし、仮にそうでなくとも＜若気の至り＞の言葉から、石川は口を閉ざして書かなかったと思う。事実避難民区城内にまぎれこんだ正規兵の数に触れながら、その後のことは書かないで済ませているからである。また半藤は「生きている兵隊」は、南京事件に直接触れたものではないとしながらも、＜その厳然たる不法の事実を明らかに示唆している＞と述べている。併せて作品の中の**《国富は失われ良民は衣食にも苦しみ女たちは散々な眼にあって》**を思い、文中に出てくる兵同士の**《(姑娘(クーニャ)が居たら俺だぞ」「馬鹿、じゃんけんだ」》**など、あきれた会話を読むと、軍国少年として＜聖戦＞を信じた私は憤りすら覚え、国も民も踏みにじられた中国民衆の難儀に対して、唯々頭をたれるばかりである。

煙台市政府表敬訪問

大須賀ミチ子

この度福島大学の留学生李鵬運さんの企画で、２月２日～10 日まで「中国・山東の旅」に、福島日中文化交流会岩間代表幹事と私が参加してまいりました。

中国山東省における煙台市の位置と省都済南

あくまでもプライベート旅行と思っていたのですが、突然煙台市政府を訪問することになりました。

残念ながら岩間代表幹事は、留学生がお世話になっている北京の人民大學へ行くことになり、それで急遽、李さんと行動をともにしている私が、「福島日中文化交流会」岩間代表幹事の親書を携えて表敬訪

問（2 月 4 日）したのです。

交通事情から到着予定が２時間程遅れたにもかかわらず、煙台市政府では人事局副局長于茂清氏、郤主任、柳主任、于副主任の出迎えと、盛大な歓迎の宴席「昼食会」を設けて頂き、席上于副局長からは「日本と中国の友好のきっかけとなることを期待したい。また煙台市は勿論、中国の良いところを沢山見て行ってほしい。」との歓迎の挨拶がありました。

福島日中文化交流会として、岩間代表幹事の親書を代読し、お預かりしていたお土産（日本茶）を差上げ、謝意をお伝えいたしました。

それから美味しい中国料理に舌鼓を打ちながら、とても友好的な緊張の数時間を過させて頂きました。以上ご報告いたします。

煙台市にある蓬莱閣

学習々々、歓迎宴々々々

友情に支えられた武漢大留学

福島日中文化交流会派遣の武漢大学学習団が、3 月 9 日から 8 日間の日程で、楽しい思い出を沢山おみやげに無事学習を終えました。会話教室の恒例企画としては北京、上海、広州に次ぐ 4 年目の短期留学です。

メンバーはわが教室関係のほか二本松、須賀川か

らの方を加え 12 名、みな熱心に中国語を学んでいる方ばかり。かなりの高齢者を含んでいましたが、一人の病気や怪我もなく、皆さん満足度 120 パーセントでした。

武漢大学はいまから 115 年前の清朝末期に創立されている名門大学で、行って驚いたのはキャンパスの広さでした。中国有数と聞いてはいましたが、岡あり、森あり、湖沼あり、18 ホールのゴルフ場なら 5, 6 個は出来そうなその中に 6 学部、36 学院の教学棟、研究棟、学生寮が点在し学部学生、研究生は合わせて 4 万人以上、教職員 4 千人といいます。

人口 800 万人の大都会にありながら、その喧騒と隔絶している環境は、広い中国の中でも特別なものでしょう。お目当ての集合場所へ行くにも、構内地図が要るほどで、端から端までを歩くのはトテモじゃありません。

私たち 12 名は入門・初・中・高級に区分けされ、別々の教室ごとに各国留学生と机を並べて授業を受けました。老師はどのクラスも中国語しかしゃべりません。早口で聞き取れないところもありますが、だんだん耳が慣れて行きます。そこが留学の意義あるところでしょう。

という具合に学習は午前が 8 時から 90 分授業 2 コマ。昼食は広い学生食堂で行列に並びながら、プレートにおかず 2 品、漬物とご飯で平均 50 円前後、片隅の売店で飲み物やデザート…これも安い!

午後も 2 コマ授業ですが、大学の計らいで私たちのために特別の中国書道や太極拳、日本語を学ぶ中国人学生との交流茶会などを組んでもらいました。

武漢は長江と漢水にはさまれた漢口、漢陽、武昌の三都市を合わせた要衝で、3 千年の昔から春秋戦国時代、三国志時代、辛亥革命、日中戦争に至るまで、どの時代でも歴史転換の舞台となって来たところです。

そう思いながら周りの人々や風物を観察すると、北京、上海、広州など時代の先端を行く沿海都市とは一味違い、少々田舎じみてはいるが、私たちが本来中国や中国人に抱いていた好ましい何か――表現が難しいが、そういう懐かしさを感じるのでした。

ここの学生も一般に質朴で、早朝から夜遅くまで芝生の上や街灯の下でよく勉強していました。日本の大学生は大丈夫かなと、思わず心配になってしまいます。

私たちも医学部の招待所に宿泊し、何時になく健全に学習しました。とにかく街に出るのが不便ですから、小遣いを使うことも少なく、観光らしいことは僅かに名所の黄鶴楼に登ったのと、博物館で漢代出土文物の「編鐘」演奏を楽しんだだけ。

こんどの武漢には、岩間さん、渡部千佳子さん、私（髙橋）らの古い友人知己が割合い多く、それらの機関や人々が友情こめて受け入れに献身してくれました。

湖北省から福島県に毎年派遣されている 2 代目国際交流員で省政府外事弁公室の高東明さん夫妻、元わが会話教室の老師で事業経営成功の黄硯君さん、湖北日報の老幹部、現幹部の皆さんなどなど。

その方々がそれぞれ立派な歓迎宴を設けてくださり、それが四晩も続いたのですから、嬉しいやら、恐縮やら……友人を大事にするという中国人気質にあらためて感じ入りました。

最後にもう一つ、高級班「口語」課目の明朗活発

な老師李瀾さんが、なんと福島県職員某氏の奥さんだったという全くの偶然、これには本当にタマゲました。

福島と湖北省，武漢はことほど不思議な縁で結ばれているのですね。

（2008・4・13　髙橋重夫記）

学習団参加者次の通り。

団　長：高橋重夫　秘書長：岩間真弓

団　員：一條美意・猪股宗男・大須賀ミチ子・川島一雄・佐久間千恵子・鈴木麻美・目黒貞子・安原毅・矢部良子・渡部千佳子

「老･壮･青」のハーモニー

髙橋重夫

福島日中文化交流会が誕生して半年、会員数もまだそう多くはありませんが、短期留学はじめ花架拳、健康マージャンなど、前向きな交流活動を次々と実行し出して、会の雰囲気が上向いているのはとても嬉しいことです。

この会は会則にあるとおり、私たちの身近な手の届く範囲の交流活動を、実践して行くことを目標に掲げています。つまり頭の中で考えるだけの交流や相互理解だけでなしにです。

その“実”が、発足間もない割には一つ一つ姿を整えているようで、大層頼もしくまた嬉しく感じられるのです。

11 月には、“結・ゆい・フェスタ”に、私も新疆のウイグル帽をかぶってお手伝いをしました。八十歳過ぎの爺さんが年甲斐もなく･･･私の胸の片隅に、こう自問する声もありました。

しかし駅前の特設テントで、インドだとかウズベキスタンだとか、他の交流団体と競うようにブースを並べると、年のことなどすっかり忘れて行事の中に融け込んでしまい、興味深そうに覗き込む市民に、夢中になって雲南少数民族の説明などをしているのでした。

孫のような小さい子供たちに中国のゲームを教えていた佐藤満さんも、きっと同じような思いではなかったでしょうか。

そしてまたオリンピック同様参加することに大きな意義があると同時に、踊る阿呆に見る阿呆、踊らにゃ損々…と言えば叱られるかもしれませんが、没入すればするほど楽しくもあるわけです。

欲を言えばこの種の行事は、主として会の幹事さんが参加運営に当たって来ましたが、もっと会員全般に PR して広く参加していただければ、会は一層活発になると思います。

それからもう一つ、後期高齢者という 75 歳以上の方が、皆さん熱心に中国語を学んでいるのも、わが中国語教室の自慢といってよいと私は思うのです。

福嶋富士雄さん、遠藤博さん、西坂勝弘さん、猪俣宗男さんら（そうでなかったらごめんなさい）･･･みんな若い方に負けないよう、楽しそうに頑張っています。これらの方が青年･壮年層と一緒に机を並べて学ぶ情景は、実に微笑ましく暖かいものです。この折り合いを大切に、わが福島日中文化交流会の気風とし育てて行けば会の発展は疑いありません。

ついでにもう一つ。

私は前の組織でながらく中国語教室運営委員長を務めてきましたが、こんどは新組織になりましたので、このほど中級班のお世話役を、やる気満々の斉藤佐久男さんに交代をお願いいたしました。いくら若い気でいても「年寄りの冷や水」ということわざもありますしね。どうぞよろしく。

何でもありの国～次は何かな

十数年前の、所は無錫のとある大通り、天秤棒を担ぐ人、リヤカーに優に２メートルは有ろうかと思われる荷を積んで引いている人、記憶の彼方に霞んでいたオート三輪、その脇に日本で目にする最新の乗用車、まるで交通博物館とみまがう風景。そこに言葉は悪いが、庭の石を除けたら蟻の巣だったような人、人の洪水。その時これは、おもしろいと感じた。その後、ほぼ毎年のように中国に行っている。その都度、初めに感じた感想は裏切られなかった。夏のシルクロード旅行で行ったトルハンで体感した摂氏５０度を超える過酷さ、そこでも生活している人のすごさ。

九寨溝の帰り道、バスから見た羌族の砦の美しさ、名も知らない非開放地区の車からしか眺められない人々の生活。　いつ行っても想像できない様な風景や出来事が目の前で展開する。その都度ワクワクする。今後とも体が動くうちは、この国を訪ねてみたいと思う。それにしても言葉、せめて買い物ぐらいはと始めてみたものの、絶対的な学習時間の不足と中国における日本語通訳の多さからくる切迫感の欠如により、いまだに挨拶がやっとの有様、いずれ中国の物価水準が日本並みになれば、今までのように一人二人の旅行に、通訳と運転手などと言う贅沢な旅は不可能になる、それまでには切符の買い方とホテルの交渉ぐらいは、できるように成りたいものだ。　　（長谷川　孝）

交流会との出会い

私と交流会との出会いは、まったくの偶然、中国語でも習おうかと思っていた時に教室の案内を見て参加したところ、先生に良くして頂き、周りの皆さんに引き上げてもらい、何もしなければ無為に過ごす時間を埋めるものを与えて貰っているうちに、こんな立場になってしまい、自分はつくづく運のいい男だと思っています。

これからも皆さんと、無理せず、頑張らず、努力せず（これは私の個人的モットーですが）ただ楽しく中国語・中国文化と触れ合っているうちに、人生が豊かに成るような会になればと思っています。

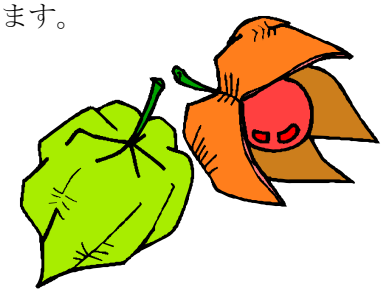
（齋藤　佐久男）

あそびうた

ふ　　ふたり一緒の
く　　苦労が実り
し　　幸せな日々
ま　　孫五人

ちゅ　チューは初めて
う　　うぶだった私
ご　　五体震えた
く　　雲の上

※　投稿を歓迎いたします。



他の役員のみなさんに、中国に対する思い、抱負をお聞きしました（50 音順）

監査担当　石川孝彦さん

「継続は力なり」という言葉を信じて、〇年間中国語の基礎を勉強してきました。しかし「継続」だけではダメで、気合を入れていかないと上達はしないものだというのが、この頃感じていることです。私の目標としては、本年中に中国語検定 4 級を目差しております。

大須賀ミチ子さん

ニイハオ！！　昨年 12 月より幹事となりました大須賀です。みなさんと楽しい活動ができるよう、微力ですが努めさせていただきますので、宜しくお願いいたします。

監査担当　福嶋富士雄さん

① 中国への思い…兄弟国としての付き合い。
② 抱負…若返ってがんばって行きたい。

会計担当　矢部良子さん

太極拳の研修で、毎年（7 回）お世話になった福建省（武術隊）は、第二の故郷のようななつかしさを覚えています。もう少し早い時期から中国語を学習しておけばよかったと、しみじみ思いました。会計担当幹事として諸行事の会費等で、皆さまのご協力を仰ぎ務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

渡部千佳子さん

大家好！！　中国の大好きな皆さんと、私たちの希望する色々な事を企画、実現していきたいと思います。とにかく仲良く楽しくチャレンジしましょう！！

24 年ぶりのマージャン

今年最初の「健康マージャン教室」は 1 月 13 日に開かれましたが、私にとって実に 24 年ぶりのマージャンでした。　会場で初めに「健康麻将マナー　十か条」に続く「アガリ役早見表」「ゲームの進め方」など、イラスト豊富な解説を渡されたこともあってすぐに思い出し、ゲームに溶け込むことが出来ました。そして慣れるにつれ完全に昔に還り、手の内が嬉しくなると「待てばァ来る来るゥ　愛染かつらァ～」なんて鼻唄が出る有様でした。

マージャンは知的なゲームで、脳トレには最高と思います。何しろ３人の捨て牌に気を配りながら、指先から頭のテッペンまで使うのですから。臨床医学やリハビリの見地からマージャンがいいと言われるのも肯けます。これから１年間、毎月第２日曜日の午後を楽しみの一つに加えて参ります。同好の大勢の方の参加を希望してやみません。（佐藤　満）

福島日中文化交流祭"春節"

平成 20 年 2 月 10 日、11 日にコラッセふくしまにおきまして、中国の春節にちなみ交流祭を行ないました。交流祭には、少数民族の衣装の試着展示、中国の装飾品や芸術品、書の展示、中国から仕入れてきたばかりの北京オリンピックのマスコット人形のストラップやアクセサリー、工芸品を販売し大変賑わいました。また、2 日間に渡って、中国茶のサービスなども行なったり、矢部良子さん、一条美意さんによる太極拳と剣の舞も披露するなど充実した活動を行う事ができました。来てくださった会員のみなさま、当日お手伝いしていただきましたみなさま心より感謝申し上げます。ありがとうございました。　　（岩間真弓）

どようの広場

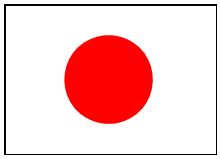
平成 20 年 2 月 9 日（土）に福島市中央学習センターにおきまして、福島市中央学習センター主催の「どようの広場」に参加いたしました。これは、福島市中央学習センター利用者団体が、市内に住む子ども達のために活動内容を紹介する場で、当福島日中文化交流会では、中国の紹介として少数民族の衣装の試着と展示、けり羽、中国の小学校の教科書などを展示いたしました。おとづれた子ども達は、初めて見る民族衣装に目を輝かせ何枚も試着する姿も見られました。当日、お手伝いいただいたみなさまありがとうございました。　　（岩間真弓）

少数民族紹介

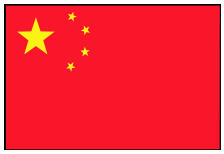
ハニ族（雲南省・端麗）

ハニ族（雲南省）

納西族（雲南省・麗江）



お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

さて、新年度が始まりまして今年度も大いに活動して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

平成 20 年度会費の納入をよろしくお願いいたします。

会費納入について
(1)　郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
　02220-7-105525　福島日中文化交流会
(2)　銀行振り込みの場合
　振　込　先:普通預金　東邦銀行保原支店
　口座番号:733649
　名　義　人:福島日中文化交流会
　　代表幹事　岩間真弓
　住　　所:〒960-0613
　　伊達市保原町字内町 21-5
(3)　会費について
　法人会員　10,000 円
　個人会員　 3,000 円

中国語会話教室からお知らせ

◎中国語会話教室第 32 期募集！

日時:平成 20 年 4 月～9 月(時間は各級による)
場所:福島市中央学習センター
内容:入門・初級・中級
費用:一ヶ月 3,000×6 ヶ月＝18,000 円
講師:李淑薇先生・岩間真弓
※一クラス分の授業料で 3 クラス受講可能

◎第 65 回中国語検定試験開催

日時:平成 20 年 6 月 22 日(日)
場所:福島テルサ
内容:準 4 級・4 級・3 級・2 級・準 1 級

「当面の行事のお知らせ」

1　花架拳教室

日時:毎月第二日曜日(講師都合により変更もある)
場所:福島市中央学習センター
内容:護身術である花架拳を演舞する
費用:前期　4 月～9 月(4,800 円)
講師:日本花架拳学会　飯田加寿子先生

2　健康マージャン教室

日時:毎月第二日曜日(都合により変更もある)
場所:福島市中央学習センター
費用:1 年分　6,000 円
内容:吸わない・飲まない・賭けない健康なマージャンを楽しく行なう

3　日中文化交流サロン

日時:毎月第 2 日曜日 10:00～11:30
場所:福島市中央学習センター
内容:日本語と中国語の相互学習
会費:無料
持物:○自分の学びたいものを持参する
　　○お茶を飲む時のマイカップ
募集:10 名程度(年齢 6 歳～)

4　総会

日時:平成 20 年 5 月 25 日(日)17:30～20:30
場所:古関裕而記念館
内容:総会・中国民族楽器演奏会
連絡:軽い食事がでます。

5　上野恵司先生講演会

「よりよい日中文化交流のために」

日時:平成 20 年 7 月 6 日(日)14:00～16:00
場所:コラッセふくしま 4F
内容:講演会・懇親会
費用:講演会無料
《懇親会》 場所:シェールドラゴン
　　時間:16:20～
　　会費:4,000 円

【上野恵司先生紹介】　　文学博士

20 年以上にわたりNHKラジオ中国語講座を担当。筑波大学を経て、現在、共立女子大学教授、日本中国語検定協会理事長。標準中国語辞典、中国語発音の基礎、NHK新中国語入門など著書多数。

6　中国語学習団
7　福島日中文化交流祭“春節”
8　その他　餃子作りなど

お知らせ

◎記事のお願い

福島日中文化交流会の会報『交流』をお読みいただきましてありがとうございます。是非、記事やご感想などをお寄せいただきましたら幸いに存じます。